

日本整形外科学スポーツ医学会 ニュースレター

No.20 2021年3月10日発行

■ 理事長挨拶



こんにちは！ 会員の皆様におかれましては、日頃よりスポーツ医学に関する教育・研究・臨床の推進ならびに日本整形外科学スポーツ医学会（JOSSM）の運営にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

令和元年（2019年）には、天皇陛下が即位

され、「令和」をあらわす「美しい風土に限りない感謝と尊敬を持ちながら、国民の一人として、令和という時代になることを喜んで迎えたい」という言葉の通り迎えられたのではないのでしょうか。そして、「RWC2019日本大会」では、史上初めてベスト8進出という快挙を成し遂げ、南アフリカを倒した2015年の「ブライトンの奇跡」以上の感動を全国民に与えてくれました。2020年（令和2年）は、未曾有の「新型コロナウイルス感染症」という未知との戦いからはじまり、東京オリンピック・パラリンピックの延期も決定し、「令和2年7月豪雨」などの天災も各地で発生しました。あらためまして、被害に遭われました方々にお見舞い申し上げますとともに、一刻も早くCOVID-19が収束すること、ならびに皆様の安全と被災地の復興を心より願っております。

先述のとおり、日本のみならず世界中が未だにCOVID-19によって日常生活では、3密を避けるなど様々な対策がとられ、SAVE LIVESのためSTAY HOMEが推進され、運動機会の減少により高齢者のみでなく子どもたちの運動器にも悪影響を及ぼしています。この事態を重くみた日整会ならびに運動器関連学会から、「児童・生徒等の運動器の健康ならびに運動器検診について」の提言 (https://www.joa.or.jp/public/motion/pdf/medical_examination.pdf) が出されました。また、本学会としても、運動・スポーツの観点から競技選手のみでなく、子どもから高齢者の心身の健康のために、療法士や看護師をはじめ多職種のスタッフとともに医

宮崎大学整形外科 帖佐 悦男

療連携を進めていく必要があると考えています。

本学会にとりましても、2020年はCOVID-19の影響を受け、JOSKAS-JOSSM 2020の合同学術集会在2020年12月17日～19日に神戸国際会議場での現地開催とオンデマンド開催のハイブリッド開催となりましたが、会長の弘前大学の石橋恭之先生ならびに教室・同門の先生方によって企画されました素晴らしいプログラム等により、3000名を超える方々に参加していただき成功裏に終了しました。あらためまして敬意を表しますとともに心より御礼申し上げます。また、スポーツ医学セミナー、トラベリングフェローなど多くの方々が楽しみにされていた事業も中止・延期せざるをえませんでした。楽しみにされていた方々や準備にあたられましたスタッフの方々のご負担を考えますと本当に残念な思いです。

COVID-19感染症のためスポーツ関係のみでなく多方面で甚大な影響を受けておりますが、この経験を活かすことでwithコロナ・afterコロナにおけるWeb活用など医学会の在り方を検討する良い機会にもなりました。本学会におきましても、会員と事務局が一体となり、新たな事業を開始しています。会員専用マイページ、学会誌の電子化など会員にとって、より利便性の高いシステムを構築しています。より良いシステムになりますよう会員の皆様方のご意見もお待ちしております。また、今後の学会運営の転機となります新たなスポーツに関する学会の設立が、2020年12月16日の社員総会で承認され、JOSKASの社員総会でも承認されました。新スポーツ医学会は、スポーツ医学（特に整形外科学分野を中心）を議論する学会の新設（JOSSMの事業やJOSKASの事業のスポーツ医学に関することは引き継ぐ）、JOSSM会員とスポーツ医学に関わるJOSKAS会員ならびにスポーツ医学に興味のある医師等を会員とする学会を基本とし、その他名称、定款（会費、会員資格、代議員資格など）は継続審議としております。このことを念頭に置き、スポーツ医学を議論する学会の設立と会員の不利益にならないように進めてまいります。そのためにも会員の皆様により一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第46回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSSM) 閉会御礼の言葉

第46回会長 石橋 恭之

弘前大学大学院医学研究科 整形外科



第46回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 (JOSSM) を、当初予定の6月札幌開催から12月の神戸に延期して(写真1)、令和2年12月17日~19日の3日間、第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) との合同学会として開催いたしました。学会直前の時期は、Go to travel 後の新型コロナ感染再拡大もあり、on site を含めた学会開催に関しましては賛否両論があったかと思いますが、当初の予定通りハイブリッド形式で行いました。参加登録は最終的に3058名となり(医師:2069名、初期研修医:13名、メディカルスタッフ:528名、学部学生:24名、その他)、予想

を超える多くの皆様にご参加いただきました。無事会を終えることができました事を、皆様方に心より御礼申し上げます。

今回の学会テーマとして『2020 その先へ—調和と発展—』を掲げさせて頂きました。企画に当たっては、JOSKAS・JOSSMそれぞれの学会の特徴をなくさないように配慮しました。JOSKASにおける学会の国際化、またJOSKAS cupや全員懇親会に関しては、感染対策の観点から大きく方向転換せざるを得ませんでした。JOSSMに関しても、今回はJOSSM/KOSSM combined meeting開催の年でしたが、残念ながらこれも中止となりました。しかしJOSSMの特徴である、理学療法士やトレーナーの先生方とのディスカッションに関しては、スポーツ損傷の保存治療からリハビリテーション、そして予防まで十分ディスカッションできたのではないかと思います。

JOSSM関連のシンポジウムとして、『がんサイバiverのスポーツを考える』、『ラグビーワールドカップ2019ホスト国の医療体制review』、『東京大会の医療体制—いよいよ本番 競技別医療準備体制について—』などtimelyな内容を幾つか企画させて頂きました。また特別講演として、スポーツ庁長官の室伏広治氏(写真2)、貴乃花光司氏(写真3)、そして桑田真澄氏(写真4)にご講演頂きました。『高校野球球数制限はどうあるべきか?何をすべき

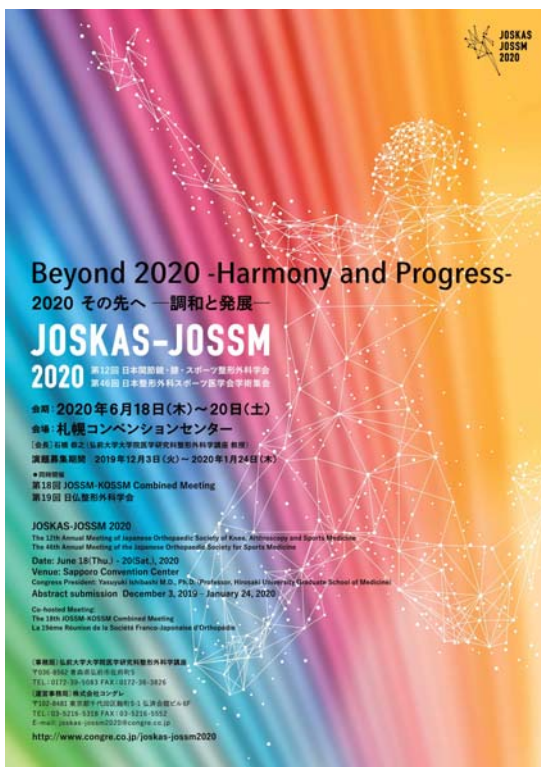


写真1. 札幌開催のポスター



写真2. 室伏広治スポーツ庁長官による特別講演 (WEB)

か?』では、桑田氏にもディスカッションに加わって頂きました。同氏から、“球数制限のメリットは「選手」にあるが、デメリットは開催する高野連、放送するメディアなど我々「大人」にある”ということを指摘されました。我々は整形外科医として野球障害の正確なデータを蓄積し、子供達の障害予防をスポーツ医学の観点から発信していかななくてはならないことを改めて感じられました。

今回、JOSSMの新しい試みとして学会最終日に、実技を交えたJOSSMセミナーを企画しました。『障害予防とパフォーマンスアップのための投球フォーム指導』、『ACL損傷・再損傷予防のためのトレーニング』(写真5)、『グロインペインの予防とアスレチックリハビリテーション』(写真6)などを、感染対策に十分配慮しながら行いました。直前の参加キャンセルはありましたが、スポーツ損傷予防に熱い心を持ったドクターや理学療法士が集まり、有意義なセミナーになったのではないかと信じております。

我々にとって初めての学会形式であり、多々ご不便・ご心配をお掛けしたかと思いますが(写真7)、

今後の学会開催の参考になれば幸いです。また、学会に先立って行われたJOSKAS、JOSSMそれぞれの評議員会では、整形外科領域のスポーツ医学を一つにまとめていくことも決定されました。どのような学会を創っていくかはこれからの議論となりますが、未来を担う若手の先生方に素晴らしい会を作って行ってほしいと思います。一年も経てば収束すると思われた新型コロナウイルスですが、まだまだ収まる気配がありません。Withコロナ、afterコロナは今後も続いて行くものと思われます。皆様どうぞお身体ご自愛下さい。



写真3. 貴乃花光司氏による特別講演



写真4. 桑田真澄氏による特別講演



写真5. JOSSMセミナー (ACL損傷・再損傷予防)



写真6. JOSSMセミナー (グロインペインの予防)



写真7. 弘前大学整形外科教室一同

■ 第 47 回学術集会開催について

第 47 回日本整形外科学スポーツ医学会 会長 稲垣 克記

昭和大学医学部整形外科学講座



日本整形外科学スポーツ医学会 (JOSSM) は、第 1 回大会を当時は整形外科研究会として大阪で開催されスポーツ選手、特に四肢運動器の障害に関する研究成果の促進をはかることで、国民や学生、アスリート

のスポーツ障害の治療発展に貢献することを目的に結成されました。時は 46 年の歴史と発展を経て研究会から学会となり第 47 回を迎えました。昭和大学医学部整形外科学講座は第 16 回大会を藤巻悦夫会長、第 38 回を筒井廣明会長のもと開催させて頂きました。このような歴史と伝統ある JOSSM はこの度、我が国における東京オリンピック・パラリンピック競技大会 (東京 2020) の開催を契機に日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) と合同開催という素晴らしい企画の下、運営をさせて頂きたく栄誉を得ました。これもひとえに両学会の役員、関係諸氏のご尽力によるものと心から感謝申し上げます。JOSSM は JOSKAS 出家会長とともに両学会が INTERACTION することにより、共により大きな進化と発展を遂げると信じています。

本学会のテーマは出家会長とともに「BREAKTHROUGH and EVOLUTION」とさせて頂きました。これは両学会が共に歩み寄り、壁を打ち破って発展的な躍進と進化を遂げたいこうという両会長の強い願いを込めたものです。どうかみなさまがこの理念に基づいて未曾有のコロナ禍でハイブリッド開催となりましたが、自由闊達な Discussion をしてい

ただけたら幸甚です。

スポーツは「投げる」「跳ぶ」「走る」「蹴る」「打つ」「泳ぐ」など人間の基本的な動作の集合で成り立っています。本学会ではこれらの基本的な運動連鎖の performance を中心に新しい理論を組み立てていければと考えています。

本学会が医師・理学療法士・トレーナー等職種の垣根を超えて、皆様にとって実りのある自由で創造性豊かな学会になると同時に、アスリートや患者さんにとって少しでも福音になる学会になることを祈念いたします。

JOSKAS/JOSSM
meeting 2021 Sapporo, Hokkaido 17-19, June, 2021

BREAKTHROUGH AND EVOLUTION

会期: 2021年6月17日(木)~19日(土)
会場: 札幌コンベンションセンター

会長: 出家 正隆 | 稲垣 克記
President: Masataka Dele | Katsunori Inagaki
愛知医科大学 | 昭和大学医学部
整形外科学講座 教授 | 整形外科学講座 教授

演題募集期間: 2020/12/22(火)~2021/1/20(水)

事務局
【第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会】
愛知医科大学 整形外科学講座 〒480-1195 愛知県長久手市岩作南又1番地1

【第47回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会】
昭和大学医学部整形外科学講座 〒142-8666東京都品川区旗の台1-5-8

運営事務局 株式会社コングレ 中野支社内
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-13 栄第一生命ビルディング
TEL:052-950-3369 FAX:052-950-3370
E-mail:joskas-jossm2021@congre.co.jp
<http://www.congre.co.jp/joskas-jossm2021/>

■ 優秀論文賞

半膜様筋肉ばなれの MRI 分類

この度、本学会 2019 年度の優秀論文賞をいただきました。共著の先生方をはじめ、関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。この論文は「半膜様筋肉ばなれの MRI 分類」で、2018 年 9 月に徳島で行われた第 44 回学術総会で発表したものを、本学会誌 40 号（2020 年）に投稿したものです。

思えば 1991 年の第 17 回の本学会で「スポーツ選手における肉離れとその後療法について」を発表し、翌年の学会誌（11 号、1992 年）に投稿したのが、私の肉離れ研究の始まりでした。それから 28 年、ほぼ 4 年に 1 本投稿してきた 8 本目の論文でした。当初は今のような分類には考えも及ばず、ただ肉離れを画像として可視化しただけで満足していま

国立スポーツ科学センター 奥脇 透

した。そのため大腿二頭筋長頭と半腱様筋の区別も怪しい状態でした。それから JISS に来て、1,000 例を超える症例を経験させてもらい、今回は半膜様筋の肉離れについてまとめました。

半膜様筋の解剖を提示しながら、スプリンターで多いことや、格闘技では坐骨結節部での損傷が起りやすいことを示しました。まだまだ不明な点の多い肉離れですので、先生方のご意見を参考にさせていただきながら、肉離れの予防につながる研究を目指したいと思います。



■ 若手奨励論文賞

体操選手の手関節痛と X 線所見

船橋整形外科病院 スポーツ医学・関節センター 面谷 透

この度は名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じまず。選考を行っていただきました先生方、そして、本論文の作成にあたりご指導していただきました菅谷啓之先生・高橋憲正先生をはじめとした先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

本論文「体操選手の手関節痛と X 線所見」は、慢性発症の手関節痛を主訴に受診した体操選手 214 手の単純 X 線画像において、異常所見を 3 種類に分類し、それぞれの発症メカニズムを競技特異性と解剖学の観点から考察したものです。また、その中には不可逆性の骨変形をきたしうる重症型があることを明らかにし、将来的な後遺症の発生を防ぐ必要があるというメッセージを込めました。

私自身に体操競技の経験があり、また手関節痛の既往もございます。この思い入れのあるテーマに関して論文として情報発信を行えただけでなく、結果的に論文賞という形でご評価いただけたことを幸甚に存じます。

今回の受賞を励みに、体操競技をはじめとしたスポーツ医学の臨床・研究に一層邁進していく所存でございます。引き続きのご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



お知らせ

1. 第20回市民・学生のためのスポーツ医学セミナー 開催延期のお知らせ

2020年5月31日に予定していた第20回市民・学生のためのスポーツ医学セミナーは、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響を考慮し、開催を延期することとなりました。開催日が決定次第、本ホームページにてご案内いたします。

2. スポーツ損傷シリーズ

スポーツ損傷シリーズは、本学会監修の患者・関係者説明用パンフレットとして、現在、No.32まで制作しています。

学会ホームページにてPDFファイルの保存および印刷が可能ですので、是非、ご活用ください。

なお、本シリーズ掲載の記事・写真・イラスト等を使用する場合は、必ず学会事務局に申請してください。

◆『スポーツ損傷シリーズ』URL ⇒ <http://www.jossm.or.jp/series/index.html>

3. 会員専用マイページについて

2020年10月より会員専用マイページを設置いたしました。

以前は会員の皆様よりお知らせいただいた内容に基づき会員情報を管理しており、ご勤務先等の変更が生じた際は、都度、事務局へお申し出いただくといったお手間をおかけしておりました。

会員専用マイページにログインいただけますと現在のご登録情報のご確認、ご変更が可能です。

※ID/PWが不明の場合は生年月日を添えて事務局までお問合せ下さい。（事務局：info@jossm.or.jp）

4. American Journal of Sports Medicine (AJSM) の購読について

本学会の会員は、American Journal of Sports Medicine (AJSM：年14冊発行) を特別優待価格で購読することができます。

	一般価格	特別優待価格
AJSM 購読	\$ 250.-	\$ 136.-
オンライン購読	一般向けサービスなし	\$ 40.-

※2020年1月契約分より価格改定

AJSM 購読、オンライン購読のどちらにお申し込みいただいても、1972年の創刊号以降の全刊行物にアクセスが可能です。

特別優待価格での購読を希望される会員の方は、会員マイページの会員メニュー：AJSM 購読申込をご参照のうえ、各自で購入手続を進めてください。

5. 会員登録情報の変更、メールアドレスの登録について

勤務先、自宅、メールアドレスに変更がありましたら、お早めに会員マイページにログインいただき、ご変更手続きをお願いいたします。ご変更がない場合、事務局からのご案内がお手元に届かないことがありますのでご了承ください。

また、日々のご連絡の他、学会情報や演題登録のご案内など、一斉メールを活用して事務局からご案内をお送りいたしますので、メールアドレスをご登録いただいていない方は、会員マイページにてご登録いただけますようお願いいたします。

編集後記

「新しい生活様式」というフレーズがすでに新しく感じられなくなっているのは私だけでしょうか。2019年末に武漢から始まった新型コロナウイルス感染症は急速に全世界を席捲し、私たちの生活を大きく変えました。スポーツ界では2020年最大のイベントであった東京オリンピック・パラリンピックが史上初の延期になりました。多くの大会が日程を変更するなど、スケジュール調整に苦慮した会員も多かったのではないのでしょうか。一方で、コロナ禍という災いが転じて学会のオンライン化など、新しい試みも生まれてきました。日本整形外科学会学術総会は完全オンライン開催となり、JOSKAS-JOSSM 2020は現地とのハイブリッド開催で行われました。課題もまだまだありますが、充実したオンデマンド配信は自由に学びの機会が得られ大変魅力的でした。しばらくこのような学会スタイルが主流になるのではないのでしょうか。診療においても電話再診などのオンライン診療が促進されるようになりました。感染リスクや患者負担の軽減の観点からは良いシステムかと思えます。しかし、スポーツ整形外科において身体診察を行わずに患者さんの状態把握と適切な診療を行うことはまだまだ困難であるのが実情です。本ニュースレターが発刊されるころにはワクチン接種の開始が予定されています。一日も早く新型コロナウイルスが終息し、あらゆる人がスポーツを楽しめる日が来ることを願っています。 (新井祐志)

日本整形外科学会 スポーツ医学会 ニュースレター No.20 2021年3月10日発行

編集：日本整形外科学会スポーツ医学会広報委員会

中川 泰彰（担当理事）、高橋 敏明（委員長）、酒井 宏哉（アドバイザー）

新井 祐志、田崎 篤、辰村 正紀、藤井 康成、安田 稔人

発行：一般社団法人日本整形外科学会スポーツ医学会

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-10-5

オンワードパークビルディング 株式会社コングレ内

TEL 03-3510-3744 / FAX 03-3510-3748

E-mail info@jossm.or.jp URL <http://jossm.or.jp>